

困ったことと解決策 国立衛研での仕事を振り返りながら

合田幸広

例会で話すことを指名されて、何を話そうかと考えましたが、上記のタイトルとしました。合田は、1986年1月に国立衛生試験所の食品添加物部に配属されて、これまでに、同部、食品部、生薬部、有機化学部(併任)、薬品部と、5部で仕事をしてきました。昔の話は、既に国立衛研でも知っている人は少なくなってきましたので、自分の仕事を振り返りながら、依頼された1時間で、話せるものを話したいと考えています。せっかく、聞かれる方が衛研の人のみというクローズドな例会で話をさせて頂くので、学会のように、ただ単に自分の仕事の中身を話すのは、能がないなと考えました。それで、「何が困って」それが、どのようなことを行うことで、どのように「解決」できたかということの本流としながら(運で解決された場合もありますが)、自分の仕事の紹介をするつもりです。従って、サイエンスだけでなく、その廻りのことについても触れながら話そうと考えています。

かなり最近の話で、困ったことといえば、学会会議の連携会員に引きずりこまれたことで、そこで発言したおかげで、学会会議で公的な「報告」を出すはめになったことです。最終的には、沢山の方の協力で、薬学委員会医療系薬学分科会から「報告:品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」をだすことができましたが、その過程で、薬学会のシンポジウムを開催することになり、その関係で書いた薬学雑誌の原稿が、大阪大学の入試問題に使われていたということがあり、何か、Do(実行)をすると、色々なことがあるんだなと驚いています。

今回の話は、1時間ですので、学会会議の話までたどり着くとは思いませんが、前世紀の食品添加物、食品部時代の話は、十分にできるのではと思っています。生薬部時代の21世紀初頭あたりの話で、今回はおわるのではと思っていますが、まだスライドは作っていないので、完全には要旨を書けません。国立衛研(衛生試験所)に入ってから、最初に困ったことは、3点ありまして、

1. 合成色素の検定業務を常にこなして行かなくてはいけないこと。
2. 自分で自由に使えるHPLCがないこと
3. 高分解能のNMRがないこと

でした。これは、試しにやってみる。上司と相談、運で解決されました。仕事とは、問題をみつけて、問題を解決することだと思っていますが、その先に、様々な新しいレギュラトリーサイエンス研究が待っていました。さらに、突然飛び込んでくる事件モノ「トリプトファン事件」での経験から、迅速な構造決定には、インバース測定の出るより高分解能のNMRと、LC-MSが必須ということが判り、その導入方法についても模索しました。それから、研究費を付けられても、研究対象物が手に入らなかった、遺伝子組換え食品の話や、組合活動で、衛研の研究職5級職をどのように獲得したか等についても話そうと考えています。